

成蹊学園 広報



2009
Summer
vol. 74
SEIKEI GAKUEN



箱根寮



学園本館改修工事が終了 築84年の歴史の象徴が 今、よみがえる



インタビュー
桃李の
人々

株式会社ホリプロ
代表取締役会長兼社長

堀 義貴

エンターテインメントの
作り手になりたいという夢を
大切にしてきました

Contents

- 2 創立100周年記念事業について
専務理事あいさつ
- 3 本館改修工事のご報告
- 4 桃李の人々(堀 義貴)
- 7 成蹊教育のいま(見城 武秀)
- 8 大学の近況
- 10 中学・高等学校の近況
- 12 小学校の近況
- 14 2008年度決算および事業報告
- 16 募金局だより
- 18 2010年度入学試験日程
- 19 学園トピックス／学園組織・役職者一覧
- 20 成蹊教育を知る

蹊

○

Series 成蹊教育を知る

かながき ひろめ かい



大正期の教育界では、常用漢字の字数制限が論議的となっていました。中国から伝来した漢字を減らし、かわりに日本古来のひらがなやカタカナを使用すべきだとする「漢字制限論」は、すでに明治時代から一部の知識人によつて提唱されていたものです。中村春二もこのような考えに共感し、とくに教育者としての立場から、読み書きをはじめたばかりの子どもたちに課せられる漢字学習の負担を懸念していました。

こうして大正九年四月、漢字を排し、誰にでもわかりやすい表音規則とひらがな表記の普及を目指す「かながき ひろめ かい」が設立されることになりました。偶然にも同じ年に、カタカナだけの表記を唱える実業家山下芳太郎の「仮名文字協会」も結成されています。

「かながき ひろめ かい」発足に際し、春二は次のように明快に宣言しています。

「わたくしたちははなすことはをまぢがえずにかきうるために、いままでのくだらないきそくをすてようとを思います。(中略)そしてかなはにほんじんのりばなはづめいですから、すべてをかなでかきあらわそうとおもいます。」

(『かなのめばえ』だい一のまき)

ひらがな表記の普及をめざして

世界中の民族が固有の文字や言葉を使えば、互いの交流には共通の言語が必要となります。ここで春二が目指したのは、国際共通語としてのエスペラント語でした。彼は「せかいきょーふー」のことばわとりあえずこのころさかえだしたエスペラントにまかして「英語など特定外国語に依存すべきではない、と説いています(『かながきのすずめ』)。

数年後に春二が病没したため、この「かながき ひろめ かい」は次第に消滅していくことになりましたが、一方の「仮名文字協会」は「カナモジカイ」と名を変えて活動を続け、現在は文化審議会の施策にも影響を与える大きな存在となっています。こうした事実、日本の国語改革に果たした中村春二の先駆的な役割を想い、夭折した彼の才能を惜しまずにはられないのです。

(成蹊学園史料館 穴山 朝子)



(写真) 左上(小):『かながきのすずめ』(大正11年)
左上(大):『かなのめばえ』(大正10年)



学園本館工事の様子

成蹊学園史料館 特別展示のご案内

1924(大正13)年、成蹊学園は学園創立者中村春二が逝去するという悲痛な事態に見舞われながらも、創立期より慣れ親しんできた池袋の地を離れ、吉祥寺にキャンパスを移転させました。本展示では吉祥寺移転時の様相を知ることができる史(資)料を集め、現在の緑豊かな学園の基礎が築かれていく様子をご紹介します。

【特別展示】

1924年、池袋から吉祥寺へ
ーキャンパス移転時の成蹊学園ー

会場 ▶ 成蹊学園史料館 1 階ロビー
会期 ▶ 10月3日(土)～12月7日(月)



成蹊学園広報

2009年7月10日 発行
学校法人 成蹊学園総務部広報課
東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話 (0422) 37-3517
URL <http://www.seikei.ac.jp> e-mail koho@jim.seikei.ac.jp





成蹊の歴史的遺産を復元 学園本館 改修工事が 終了しました

本年四月十七日、約九か月間にわたった学園本館の改修工事は無事、竣工引渡しを受けました。このことは前号でも簡単にお伝えいたしましたが、築八十四年を経て再生された学園本館につきまして、改めてその内容をご報告させていただきます。

まず改修の最も重要な点は、目に見える部分ではありませんが、震度六強の地震に耐える構造とするための耐震補強でした。これには、本体の構造部分となる内外壁のコンクリートと鉄筋を徹底的に補強したわけですが、経年による劣化もさることながら、八十年以上昔のわが国における鉄筋コンクリート建築技術の限界に起因する部分も多く散見されました。そもそも竣工時の設計図面など、あつてなきに等しいものでしたので、困難な課題に何度となく直面しましたが、元施工者でもあった清水建設(株)様と、同様に元設計者であった(株)三菱地所設計様の強い責任感と高い技術力により解決することができました。

次に重要な点は、漏水や剥離の危険が高かった外壁の劣化補修でしたが、学園の顔である本館の外観について、これまでと変わらない印象を保つべく、外壁タイルの全数調査から始まり、傷み具合が極めて深刻であり、残すことができないことが判明した段階ですべてを交換することとし、オリジナルのタイルを忠実に復元することに挑みました。この解決も専門メーカーの高い技術力に負うところが大きかったのですが、業者の方が「焼き物は厳密に言えばこの世に二つと同じものを作ることはできませんが、こんなものを作ってみました」と言って持参された見本品は、それを見た学園担当者、工事関係者が皆一様に「オリジナルと区別できない」と驚くほどのすばらしい出来栄でした。おそらく、改修後の本館外観をご覧になった方々も、外壁タイルをすべて張り替えたとは思ひがられないのではないかと自負するところですよ。

また竣工当時の写真をもとに、南側三箇所のエントランス上には、レトロな外灯も忠実に再現いたしました。



1階ロビー



談話室



大講堂

てくれたことは、この工事に携わったすべての者にとって何よりも嬉しい言葉だったのかもしれませんが。新一年生の心の中にいつまでもこの日の本館の景色が焼き付いていてくれることを願います。

400mグラウンド改修工事

建物としての学園の顔が本館であるとするならば、けやき並木・桜並木と並ぶ施設としての顔は、小中高大の児童、生徒、学生の誰もが在学中に一度は利用する四〇〇mグラウンドと言えるのではないのでしょうか。

学園創立一〇〇周年記念事業の施設関係整備工事として、この四〇〇mグラウンド改修工事を実施することといたしました。

誰もが屋外でのスポーツに親しめるよう、その主たる内容は、日本陸上競技連盟の四種公認に準拠したハレーンからなるトラックのウレタン舗装、ラグビー、サッカーなどの公式戦が開催可能となるインフィールドの人工芝舗装、そして本部席の新設を含むスタンドの改修、照明設備の増設などとなります。

工期は六月中旬から十一月末までを予定していますが、竣工相成ったグラウンドでは、多少の悪天候に左右されることなく、体育大会などの学校行事や正課授業をはじめ、ラグビーやサッカー、陸上競技などの課外活動がこれまで以上に活発に開催されることとなります。その出来栄をぜひご期待ください。

(財務部管財課施設営繕担当課長 熊崎和宏)



400mグラウンド(改修イメージ図)

学園創立 一〇〇周年を超えて

去る三月二十七日に開催された理事会で専務理事に選任され、三月二十九日付けで就任いたしました。二度目ということもあり、学者として温めてきたいささかの計画のこともあつて強く固辞したのですが、佃新理事長を支えるとともに、前の経験を学園の将来のために生かしてほしいとの岸前理事長の深いお気持ちを感じ、お引き受けすることにいたしました。もとより非力ではありますが、お引き受けした以上、成蹊学園のさらなる発展のために全力を尽くしたいと考えておりますので、どうか旧にも増してご支援くださいませようをお願いいたします。以下、専務理事就任にあたって思うところの一端を申し述べさせていただきます。

学園は、「成蹊学園二十一世紀将来構想検討委員会」が「個性を持った自立的な人間の創造」を目指して策定した「構想」に沿って二〇二二年にめぐってくる学園創立一〇〇周年に向けた改革を次々に実現してまいりました。大学情報図書館、小学校・中学校・高等学校の校舎の建築が、本格的な情報化時代への対応、小学校28人学級の実現、中高一貫化の強化といった教育内容の改革に対応する形で行われてきたのはその成果でした。また、豊かな国際感覚を身につけた人材を学園横断的な組織で育成しようとの理想の下に国際教育センターが設立され、着実な成長を遂げ

てきたことも、学園の歴史にとって特筆すべきことでした。こうした改革を推進されてきたすべての関係者の方々、特にその先頭に立たれてきた岸前理事長、橋本前専務理事の御努力に敬意を表するとともに、募金活動を通じて学園改革への財政的支援を惜しまれなかつた多くの方々に心から感謝したいと思います。

このように、多くの皆さまの御尽力によって学園改革が進む中で専務理事に就任した私には、佃理事長を補佐することの他に、少なくとも三つの大きな任務が課せられているように思います。第一は、これまで続けられてきた学園改革の一つの区切りとして、三年後にやってくる学園創立一〇〇周年記念の行事に積極的に取り組むことです。この行事は、学園改革の成果を内外に示す絶好の機会でもありますので、すでに組織されているプロジェクト・チームからの答申を受けて計画案の具体的な作成に早急に着手したいと思っております。記念行事の推進を通して、卒業生を含む学園全体の一体感や連帯感を作り出していくことも重要なことだと思っておりますので、学園を構成するすべての方々のご協力を心からお願ひしたいと思います。

第二の任務は、この間の改革事業で消耗した学園財政の体力の回復に努めることです。もとより、こ

れまでの改革事業は周到な基金の積み上げの上で推進されてきましたし、募金からの少なからぬ裏づけもありましたので、それによって学園の収支バランスがマイナス方向へ大きく傾いたということはありません。しかし、現在の学園財政には直ちに次の大規模な事業を始めるだけの余力は残されておりませんので、無駄な出費を極力抑えながら引き続き学園財政の健全化に努力しなければと考えております。

私に課せられた第三の任務は、成蹊の歴史が新たな段階に入る二〇二二年以後、学園が目指すべき方向に大きな道筋をつけることかと思っております。世界の変化、日本の変容を見極めながら、創立一〇〇周年を超えて、成蹊学園を真に個性的な教育・研究の場へとさらに飛躍させるためにどうしたらよいかの検討に入らなければならないと思います。その場合、おそらくより魅力的な組織への改革が最も強く迫られるのは大学、大学院であり、議論は上述した「構想」の再評価から始めるべきだと考えております。学園将来構想検討委員会委員長として、学園が総力を挙げて取り組むべきそうした改革事業を積極的に推進して行く所存ですのでどうか皆さまのご理解とご支援とを賜りますようお願い申し上げます。そして、私からの就任のご挨拶といたします。



成蹊学園将来構想検討委員会 委員長
成蹊学園 専務理事

加藤 節

(かとう たかし)



中学・高校、そして大学と、 「エンターテインメントの作り手」に なりたいたいという夢をずっと 抱き続け、大切にしてきました

ところが、評定平均値などの応募条件はクリアしているから大丈夫と、安心していたにも関わらず、希望者が多かったためか、学内選考で落とされ、出願できなくなってしまったのです。

—それから一般入試に向けた勉強を始められたわけですか。

堀 ええ。高校三年生の夏頃から、一般入試に向けた受験勉強をスタートしなければならなくなりました。それまでは推薦入試に応募できるように、評定平均値を上げることに専念しており、定期試験対策を最重視していました。それによって、各教科の学力のベースは養われていたものの、受験ではブラスアルファの知識や応用力が要求されます。それに対応した学力への転換を図るのに苦労しました。とくに、秋の公開模試で、成蹊大学法学部の合格可能性が四〇％という判定が出された時は大変なショックを受けました。このままではまずいと、頭をさらに受験モードに切り換えてがんばりました。

結局、最後まで成蹊大学が第一志望という気持ちは変わりませんでした。自分の性格に合っていると思っていましたし、指定校推薦入試を受けることができなかったので、一般入試でリベンジしたいという気持ちも強かった気がします。

ゼミコンパで教授に
課題の軽減を交渉

—実際に入学されて、どのような印象を持たれましたか。

堀 少人数制のアットホームな雰囲気良かったですね。入学してすぐに、選択した外国語ごと四十名ほどのクラスが編成され、体育など、他のいくつかの科目もほぼ同じ顔ぶれで授業を受講していくので、自然と親密になっていきます。そのうちに、同じクラスの中でも、より気合う学生同士で、いくつかのグループに分化していくわけですが……。私の場合は、校門まで来ると、友人たちが待ちかまえていて、「さあ、揃ったから行くよ」と、そのまま雀荘に直行したことも

インタビュー 桃李の人々 vol.22 卒業生ロングインタビュー

推薦の校内選考のリベンジを
一般入試合格で果たす

—成蹊大学を志望されたきっかけは何だったのでしょうか。

堀 私は、中学・高校と暁星学園で学びました。大学の附属校ではありませんから、大学に進学するためには入試に合格する必要があります。けれども、あまりハードな受験勉強はしたくない。できれば推薦で入学したいと考えた私は、暁星が推薦入試の指定校になっている大学について、いろいろと調べてみました。その中で、成蹊大学ならば、穏やかでのんびりした学風で、暁星で学んだ人間にとって馴染みやすいのではないか。そう感じたことから、志望校に選びました。

株式会社ホリプロ 代表取締役会長兼社長

堀 義貴

Yoshitaka Hori

和田アキ子、片平なぎさ、榊原郁恵、妻夫木聡など、数多くの有名芸能人が所属する日本有数の芸能プロダクション「ホリプロ」を率いるのが堀義貴さん。成蹊大学法学部政治学科時代の思い出や、これまでの主な仕事の内容、および経営者として今後の若者たちに期待することなどを語っていただきました。

あるようなグループでした（笑）。キャンパス周辺の飲み屋にもよく通いました。

当時のクラスの仲間とは、現在でも年一〜二回、約十名が集まり、酒を酌み交わしています。最近はずっかり「健康の話」が話題の中心になってきており、月日の流れを感じます（笑）。

—どの先生のゼミに所属されましたか。

堀 加藤節先生のゼミですが、先生には本当に申し訳ないことをしたと反省しています。何の目的意識もなく参加していた学生だったからです。加藤ゼミを選んだのは、先ほどの仲間約十名と一緒に入れるゼミを探しており、加藤先生がそれを受け入れてくださったのです。十七世紀ヨーロッパの政治思想史をテーマとするゼミでしたが、正直なところ、そのテーマに関心を持って入ったわけではないので、真剣に学ぼうという意識も薄く、アカデミズムの香り高い先生の話もほとんど理解することができませんでした。

そんな出来ない私たちでしたが、加藤先生は温かく見守ってください、ゼミコンパなどにもよく参加されていました。夏休みの課題として、ある本を読んだ数十枚のレポートを提出するように言われた時のコンパでは、先生にお酌しながら「数十枚のレポートはとても無理ですから、何とか二枚程度の感想文でオーケーにしてもらえませんか」と懇願。お酒が進むにつれて、先生も「仕方がないな。それで良しとしよう」と。当時の成

蹊大学の学生は、そうしたコミュニケーション能力や交渉術はきちんと身につけていたような気がします（笑）。

広告研究会に所属

ミスコンテストの司会を務める

—部活動は何をされていましたか。

堀 広告研究会です。とはいえ、それほど真面目な部員でもありませんでした。もっぱら新歓コンパ・合宿要員で、OBや先輩から「新入生に酒飲みの手本を見せてやれ」と乗せられて、ウイスキーを一気飲みして、酔いを見せずに引き上げるのを美学だと感じていました（笑）。けっこうお酒は強かったですね。

半ば幽霊部員のような立場でしたが、広告研究会主催のミスコンテストの司会を務めました。周囲に家業が知られており、司会は得意に違いないと思われたのでしょうか。実際、高校生の頃から学園祭の屋外イベントで司会を担当していました。生意気にも「自分なら、台本なんかなくてもやれる」という自信があったため、打ち合わせにも参加せず、ぶっつけ本番で臨んでいました。

とはいえ、小さい頃からそういうタイプだったわけではありません。むしろ中学までは人前に出るのが嫌いでした。高校で屋外イベントを担当するようになり、人に指示するよりも自分でやった方が楽し、人前で話すことも苦にならなくなっていたのです。

無名の芸人の将来性を
見極める「目利き」に自信あり!?

—卒業後、一時、ニッポン放送に入社されたのですね。

堀 「エンターテインメントの作り手」になりたいという夢は、ずっと抱き続けていました。ただし、めざす方向性は微妙に揺れ動きました。中学までの目標は、萩本欽一さんの弟子になり、お笑い芸人をめざすこと。『欽ドン！良い子悪い子普通の子』という番組で、「普通の子」が辞めた際のオーディションにも応募しようとしたほどです。ところが、父（ホリプロ創業者の堀威夫氏）から猛反対されました。そういえば、面と向かってその理由を聞いたことはないのですが、おそらく売れない芸人が苦勞している姿を目の当たりにしていたからだったでしょう。

お笑い芸人をあきらめて、大学卒業後、ニッポン放送に入社しましたが、これは私が「アストラダムスの大予言」を信じ込んでいた世代であることが影響しています（笑）。一九九九年七月、すなわち私が三十三歳の時に地球は滅びる。ならば、卒業して十一年しか残されていない。テレビだとまず、ADを五年〜十年やらされるが、そんな余裕はない。ラジオなら早めに番組づくり

—ニッポン放送ではどんな仕事をされたのですか。

堀 ニッポン放送には四年間お世話になりましたが、ずっと編成部に所属していました。当時、ニッポン放送の編成部は約十名と少なめだったため、一人で何役もこなす必要があり、私も番組の企画、本の出版、イベント、番組考査など、さまざまな業務に携わりました。それなりにいい経験になりましたが、縁の下力持ち的な業務であり、自分で企画したものなのに、演出するのは他の人。企画を渡した瞬間から何も口出しすることはできない。そんなことが続くうちに消化不良を感じてしまい、ディレクターの仕事渴望するようになりました。そこで、映像制作に携わせてもらえることを条件に、ホリプロに移ることにしたのです。

—ホリプロでどのような番組を制作されたのですか。

堀 情報バラエティ番組のほか、ドラマも一本制作しました。それから、自分自身、お笑い芸人になりたいと思っていた



文学部では二〇〇五年四月から、メディアアリティラー実習という授業を実施しています。今回はちよつとユニークなこの授業についてご紹介し、メディアアリティラー実習は、武蔵野市・三鷹市で活躍する三つの団体（NPO法人むさしの、みとか市民テレビ局、NPO法人KISS、株式会社エフエムむさしの）の協力を得ながら、地域の方々と一緒に映像作品、ウェブサイト、ラジオ番組を制作する授業です。完成



ラジオ局のスタジオ見学

しかしながら、成蹊大学のメディアアリティラー実習が目指しているのは、メディアや情報をめぐる能力を高めることだけに留まりません。地域の方々と一緒に取材を進めながら、大学のある武蔵野・三鷹地域に関する理解を深めることを重視している点が、他大学の類似の授業とは異なるメディアアリティラー実習の特長であるといつてよいでしょう。実習では、二〇〇五年度から二〇〇八年度までの四年間で、十本の映像作品、三種類のウェブサイト、四本のラジオ番組を制作してきました。そのテーマは、吉祥寺

駅近辺の違法駐輪問題、ハモニカ横町の防火運動、武蔵野市・三鷹市の子育て事情や高齢者支援活動の紹介など、いずれも地域と密接に結びついたものばかりです。普段あまり接触する機会がない武蔵野・三鷹両市民と取材を通じてつながりをもち、また両市民から多くの支援を受けながら作品を完成させたことで、学生たちは自分の住む地域についても自ずと問題意識を育んだようです。取材の過程で地域の歴史に対する関心が深まったことも見逃せない成果です。情報の送り手としての体験を積むことでテレビやインターネット、ラジオというメディアがもつ特性への批判的理解が深まったことも合わせ、本実習は履修生に多面的で有効な体験学習の場を提供していると言えるでしょう。二〇〇九年度前期、学生たちは「武蔵野産野菜」をテーマにしたラジオ番組の制作に取り組んでいます。完成した番組は七月中旬にむさしのFMでオンエアされる予定です。どんな番組が仕上がるか、皆さんどうぞ期待しててください！



パソコンを使った映像編集作業

メディアアリティラー実習について

メディアアリティラー実習 —地域と密着した新しい体験型学習—

大学・文学部

コミュニケーション論、メディア論

けんじょう たけひで

見城 武秀

文学部准教授

1996年着任。専門はコミュニケーション論、メディア論。近年はコミュニケーション論とメディア論の境界領域としてのメディアアリティラー論に注目し、研究を進めている。著書に『メディア・コミュニケーション学』（共著：大修館書店）、『モバイルコミュニケーション』（共著：大修館書店）など。



メディアアリティラーとは何か

そもそも、メディアアリティラーとは何でしょうか。テレビ、新聞、ラジオ、雑誌、インターネット、携帯電話など、さまざまなメディアから伝えられる膨大な情報に取り囲まれて成り立っている私たちの生活。このような「情報のバザール」とも呼べる状況の中で、信憑性のある情報とない情報、自分にとって価値のある情報とない情報とを見分ける鑑識眼を私たち一人ひとりがもつことの重要性は、これまでになく高まっています。この鑑識眼と密接な関係をもつのがメディアアリティラーです。メディアから得られる情報をそのまま鵜呑みにするのではなく、批判的に再解釈すると同時に、自らもメディアを通じて自分の考えを他者に的確に伝えていく。メディアアリティラーとはそういった総合的能力を意味しています。



吉祥寺街頭でのインタビュー

堀 義貴（ほり・よしとか）

1966年、東京都生まれ。暁星中学校・高等学校を経て、1989年、成蹊大学法学部政治学科卒業。同年、ニッポン放送に入社し、編成部に所属。1993年にホリプロに入社し、1997年、取締役制作・宣伝事業担当、2002年、代表取締役社長に就任。2008年から会長を兼任。また、2007年から、武蔵野学院大学客員教授も務めている。



頃もあるぐらいですから、どうしても作りましたかったのが、芸人を使った番組です。けれども、昨今のような「お笑いブーム」ではありませんから、実現に結びつけるのは困難でした。結局、日本テレビの深夜に『ジャムパラダイス』という無名芸人だけを登場させる番組を作りました。その中で、未だに生き残っているのが「劇団ひとり」や「ビビる大木」などです。そういえば、成蹊大学の広告研究会で活動していた時にも、まだ売れっ子ではなかった「ダチョウ倶楽部」をイベントに呼んだことがあります。

自分でも出身大学名を名乗らないし、相手に聞かないので、十年以上も一緒に仕事をしてきた人と、同じ成蹊出身だと知らずにいたという経験を持っています。大学名ではなく、自分個人の力を評価してほしい。それが、成蹊出身者に共通する精神のような気がします。

—後輩たちに向けてメッセージをお願いします。

堀 経営者として、大学新卒者の採用にも立ち会っていますが、四年間をがんばってきた学生なのか、ムダにした学生なのか、面接で少し話をするだけで明快に分かるし、四年間で大きな差が開いていることも感じます。やはり、四年間をどれだけ充実したものにするかは、大学生にとって重要なポイントなのです。

また、私が気になるのは、女子学生の方が、危機感を持って自分に投資し、努力しているのに対して、男子学生はのんびりと待ちの姿勢に終始しているように見えることです。そのおとなしさが、思考停止につながっていないか、いいのですが……。たとえば、授業中の私語禁止と言われたら、昔の学生だったら音が出ないような私語にするにはどうしたらいいかと考えたでしょう（笑）。ルール破りを推奨しているわけではありませんが、指示通りにやろうとしないその瞬間こそが、思考し、工夫している時間なのです。それは大学時代にとって重要な瞬間であると、私は考えています。

世界史の流れの中で日本を見つめ直してほしい

—これまでの経歴の中で、成蹊大学で学んだことが役立っていると感じられることはありますか。

堀 謙虚さを学んだことです。成蹊大学の卒業生は、社会に出てから大学の名前をひけらかそうとはしません。だから目立たない面もありますが……。私自身、

—企業、社会の立場から、大学時代にぜひ身につけてほしいと感じられることは何でしょうか。

堀 国際社会においては、コンピュータや英語が使ええるのは当たり前ですが、それに加えて世界史の勉強も不可欠です。私は最近、舞台の仕事が多く、海外の舞台クリエーターと話をする機会がよくあるのですが、そんな時に相手の国の文化、事情をまったく知らないようでは話になりません。作品のバックボーンとして、歴史、宗教などの影響を把握しておくことも重要になります。とくに相手の人の国と、日本との歴史上の軋轢については、たとえ千年前、二千年前の出来事であっても、ビジネストークの合間の話題として登場してくることが少なくありません。そんな時、知りませんでは通用しないのです。

—成蹊大学では、二〇一〇年度から、学部横断的な「成蹊教養カリキュラム」を導入します。文理融合教育と英語教育の徹底を柱として、幅広い教養教育を実施。その中で、歴史教育にも力を注ぐ予定になっています。

堀 大賛成です。学生たちに、世界史の流れの中で日本を見つめ直す機会を与えてほしいですね。とくに近現代史においては、その視点がとても重要になると思います。

大学の近況

国際ボランティアシンポジウム

四月十七日、大学三号館一〇二室にて国際ボランティアシンポジウムが開催されました。三部構成で開催された本シンポジウムには、本学学生をはじめ一般市民などおよそ百名の参加者が集まりました。

第一部では、「国際貢献とボランティア」をテーマに、国際協力アドバイザー・外務省参与の五月女光弘氏による講演が行われました。五月女氏は日本がこれまで諸外国から援助されてきた歴史について触れ、日本が国際貢献を行う意義や今後の果たすべき役割について分かりやすく説明してくださいました。



また第二部では、「コンソポプロジェクトの意義」という題目で、国際ボランティアコーディネーターの暉峻僚三氏と成蹊大学体育会自転車部の吉田史明君・永井健君による報告がありました。彼らは実際にコンソポに向いて、現地の方たちに自転車の組み立て方を指導する職業訓練を行い、その様子が一月十九日の朝日新聞にも取り上げられています。本シンポジウムでは身振り手振りで熱心に組み立て方を指導する彼らの様子がスクリーンに映し出されました。学生両名が現場での感想を述べると、会場から温かい笑い声がおこる場面もあり、終始和やかに進められました。

第三部では、「これからのボランティア」というテーマで、北川浩学長補佐の司会のもと、埼玉大学名誉教授の暉峻淑子氏、本学文学部教授の高田昭彦氏、文学部准教授の墓田桂氏によるパネルディスカッションが行われました。大学という組織で学生のボランティア活動をどの

オープンキャンパス日程

今年度のオープンキャンパスは、左記のとおり開催されます。当日は、キャンパス見学ツアーや体験講義、成蹊大学ガイダンスや就職ガイダンスなど、成蹊をより深く知るためのイベントが多数行われます。教職員や在学生と直接ふれあうチャンスも多く、成蹊の魅力と雰囲気を実感できる内容となっています。高校生を主な対象としていますが、どなたでも参加いただけます。

- 第一回 八月一日(土)・二日(日)
- 第二回 九月十二日(土)・十三日(日)
- 第三回 十一月二十二日(日)(大学祭期間中)

各回とも十時より受付開始で十六時半受付終了予定です。事前の申し込みは不要です。時間内の入退場は自由です。

理工学部 一体験科学教室

理工学部の三学科では、科学技術に関心を持ち、好奇心が旺盛な高校生を対象に、本学で行われている研究の一端を紹介しながら、さらなる科学に対する興味を持っていただくため、「一体験科学教室」を次の日程で開催します。最新の科学と技術に触れてみたい方はぜひご参加ください。

- 物質生命理工学科 七月二十六日(日)
 - 情報科学科 六月二十八日(日)【終了】
七月十九日(日)・九月二十七日(日)
 - エレクトロメカニクス学科 七月二十五日(土)
- 詳細については左記大学ホームページをご覧ください。
ホームページアドレス
<http://www.seikei.ac.jp/university/rikou/event/index.html>

学長と語る会

～ピカピカの新入生と一緒にランチ編～

4月24日、2009年度学部新入生を迎えて「学長と語る会」が開催されました。

「学長と語る会」は学長と学生の交流プロジェクトである「SEIKEI架け橋プロジェクト」の一環として2007年よりスタートしたもので、毎回、特定のテーマに沿ってさまざまな学生を学長室に招いて、大学生活について意見交換を行っています。

今回の「学長と語る会」には学部・性別さまざまな7名の新入生が参加し、サンドイッチをつまみながら和やかに進められました。

本学に入学してから感じていることとして新入生からは「キャンパスが小さいのでアットホームな感じがして馴染みやすい」といった声や、「落ち着きがあって居心地がいい」といった声が寄せられました。また、「学生時代に勉強以外に打ち込んだことはありますか?」「どうして学長になられたのですか?」といった新入生らしい質問も寄せられ、学長、また同席された副学長はにこやかに回答されていました。

学長からは「学生時代にはたくさんの人と出会い、自分の幅を広げてほしい。本学はワンキャンパスなので、そうした出会いに恵まれた環境にあると思います」とメッセージが送られました。



伝統ある年間行事の一つ、成蹊学習院・成城・武蔵の四大学で競い合う四大学運動競技大会(通称四大戦)が、十月十六日から十八日まで、成城大学で開催されます。

それに先立ち六月九日、本学において闘魂決起大会が開催され、晴れわたる空の下、応援団長のエールが構内に響き渡りました。

四大戦は、昭和二十五年に第一回大会が行われ、その後一度も絶えることなく半世紀以上の間続けられてきた伝統ある行事です。

体育会を中心とした正式種目はすでに対戦が始まり、現在までにスキー男子、スキー女子、バスケットボール男子の三種目が終了しています。バスケットボール男子は見事優勝するなど、総合で本学は学習院と並んでトップに立っています。

優勝杯を学内に飾れるよう、今後の活躍にも期待したいと思います。

四大学運動競技大会(四大戦)闘魂決起大会

学位授与式

三月十九日、二〇〇八年度学位授与式が行われ、当日は色とりどりの袴姿で学内が彩られました。教職員、保護者、後輩たちの見守るなか、卒業生(千七百八十六名・修了生(百三十三名)が本学を巣立ちました。



入学式

四月三日、快晴のもと二〇〇九年度入学式が行われました。千九百四十四名の新たな仲間を迎え入れた学内は、新入生勧誘に励む在学生の声で賑わい、スーツ姿の新入生たちは、戸惑いながらも懸命に先輩たちの話に耳を傾けていました。



むさしのFM「武蔵野地域自由大学情報」

五月三日より来年三月まで、武蔵野市のコミュニティFM「むさしのFM」で、「武蔵野地域自由大学情報」が放送されています。この番組は本学のほか、亜細亜大学・東京女子大学・武蔵野大学・日本獣医生命科学大学が一週間ごとに担当し、本学からは成蹊ラジオクラブの学生が番組を制作し、地域に根付いた内容で好評を得ています。放送日など概要は次のとおりです。

むさしのFM(78.2MHz)

武蔵野地域自由大学情報

放送時間 ▶ 毎週日曜日 9:45～9:50

再放送 ▶ 毎週月曜日 11:35～11:40

7月19日・8月23日・9月27日・
11月1日・12月6日・1月10日・
2月14日

成蹊大学
担当分

※放送日は変更になる場合があります。
※むさしのFMは武蔵野市・三鷹市内をエリアとしていますが、杉並区・練馬区・西東京市の一部など隣接した区・市でも聴くことが可能です。



中学・高等学校の近況

環境保全活動のご報告

はじめに中学・高等学校における生徒の環境への取り組みを生徒の文章も交えてご紹介します。

● 蹊祭での環境への取り組み

(高校三年G組 大津良騎)

成蹊学園では現在さまざまな環境活動が行われていますが、高等学校でも生徒会や蹊祭実行委員会では生徒発案の活動を実施しています。

蹊祭では昨年度より実行委員会に『環境整備パート』が新設され、ゴミ処理の指導を中心に活動しています。

活動内容紹介の前に、まず一昨年までの状況を知っていただきたいと思います。文化祭で出るゴミは大きく分けて二つ、展示撤収にかかわるゴミと模擬店から出るゴミです。どちらも分別をするというのが原則でした。しかし分別を指導できる人がいなかったり、来場者の方への周知がなされていなかったために分別が徹底できず、多くの処理を清掃業者の方が一週間ほどかけてされていたそうです。

そこで環境整備パートでは分別の徹底を最重要課題として挙げ、各団体にゴミ担当の責任者を置き、連携を取ることによって、分別を促すことにしました。その結果、展示団体から出るゴミに関してはほとんどが分別され、確認のみで処理することができました。しかし模擬店から出るゴミに対しては、有効な対策を取ることができず、問題を解決することができませんでした。環境整備パートでは大学で行われている「ごみステーション」のような海戦術で分別指導を行う案も出されましたが、それにはパールの人数が足りず断念せざるを得ませんでした。今年度の活動は人数集めから始まりますが、問題の解決には生徒全体の参加意識が欠かせません。自分は実行委員の代表として「武蔵野市高校生ゴミミートイング」に参加して活動報告をしました。他校に比べて成蹊高校生のゴミへの意識はまだ低いと感じました。他校で

中学校遠足と高等学校体育大会

悪天候のためいづれの行事も予備日の五月十二日に実施され、まずまずの好天に恵まれ中高ともそれぞれの行事が順調に行われました。中学一、二年生の遠足は、七月に行われる夏の学校の予行演習的な性格を持っています。一年生は高尾山登山と自然観察を通じて自然に親しみ、仲間作りを行うことを目的としています。登りは稲荷山コースから一丁平で昼食、六号路コースで下山するというコースをとりました。二年生は陣馬の山と自然を楽しむとともに夏の学校に向けて集団登山に慣れることを目的としています。中央線藤野駅に集合し一の尾根を登って山頂を目指しました。一年のときに比べると山も深く、登りのきつさに音を上げそうになることもありましたが、それだけに山頂に着いたときの満足感はひとしおで、用意された冷たい飲み物とともに美味しく昼食をとることができました。下山は明王峠を通過して与瀬神社を回り相模湖駅で解散しました。三年生は五月末に予定される修学旅行での班別行動の訓練と、東京国立博物館と江戸東京博物館での事前学習



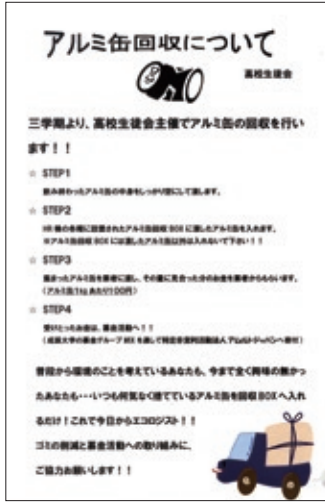
は普段から生徒自身がゴミの分別回収をするのは当たり前です。私たちは自分たちが業者の方に助けられているという状況にあることを認識し、ゴミを出す私たち自身が分別するように意識を変え、学校を変えていくべきなのではないでしょうか。

● 生徒会によるアルミ缶回収実施

(高校三年D組 中尾晴子)

昨年度の蹊祭でのゴミ分別活動を引き継ぎ、今年二月から生徒会によるアルミ缶回収を実施しています。ホームルーム棟各階の踊り場や下駄箱前にアルミ缶回収ボックスを設置しました。週一回生徒会役員が回収し、一定の量がたまる専門業者に引き取ってもらいます。生徒会ではアイメイトやあしなが募金などの活動にも力を入れていきますので、ごみ減量とともに、その活動の一環としても位置づけ、換金されたお金は寄付に回す予定です。

自分たちの手で回収作業を行いその大変さを知ったことで、ゴミ分別への意識も高まりました。新しい生徒会役員にもこの活動を受け継いでもらい多くのアルミ缶を集めてほしいと思います。また、回収の効率化と学校全体のゴミ削減意識向上のため、生徒会役員以外の生徒が回収作業に参加するシステムを作っていくことが大切だと思います。



高等学校では、このほかにも、不用になったスポーツ用品を発展途上国に送るボランティアへの参加や、使用済みテニスボールを教室の雑音防止



を通じて鑑賞マナーを身につけることが遠足の目的です。折から、東京国立博物館では阿修羅展が開催されており、普段なら修学旅行中、興福寺国宝館のガラスケース越しに鑑賞する阿修羅像が、今回は間近でしかも後側からも見られると言うことで、数十分待ちの行列に並んで多くの生徒が鑑賞していました。上野での鑑賞が終わって電車で両国に移動、江戸東京博物館では江戸の歴史、文化に接し、これから訪れる京都・奈良の文化との違いを学ぶ手がかりを得ることができました。

この日、高等学校では体育大会が行われました。バレーボール、バスケットボール、テニス、ソフトボール、サッカー、卓球、ハンドボールなどの競技をクラス対抗で行い成績を競いました。一年生は高校入学後始めて、二年生はクラス替え後はじめての行事で、クラスの仲間作りと団結を深めることができました。

中学校講演会・見学会と高等学校遠足

中間試験後の五月二十八日、二十九日の両日、中学一、二年生を対象に講演会と見学会が行われました。一年生は二十八日にインターネットキャパンの福井亨氏による携帯電話・インターネットの安全な利用法についての講演会、二十九日には柳家権太楼師匠他による寄席鑑賞をいづれも大教室で行いました。福井氏の講演では日頃便利に使っているメールの落とし穴が具体的に生徒や保護者に説明されました。二年生は

のために全国の学校に送るNPO法人への協力を通じて、少しずつですが、ゴミ削減に努めています。

中学美化委員会の取り組み

中学校では新校舎利用開始を機に生徒の美化準備委員会を立ち上げ、環境整備、清掃について検討を進めてきました。掃除エリアと各学年への割り振りなど、生徒たちが使う環境を少しでもきれいで長持ちさせるための工夫を委員会で決め、三学期以降各ホームルームで実際の清掃活動に入っています。新年度から美化委員会として発足し、各清掃箇所の用具チェックや補充など清掃活動が円滑にできるよう備品管理をしています。

中高入学式と新入生週間

入学式が四月七日、新装なった学園本館大講堂で挙行されました。この日は午前十時より中学校、午後一時半より高等学校の入学式が行われました。中学校の入学者数は国際学級入学生、中二帰国編入生を含めて二百六十九名、高等学校の入学者数は高二編入生を含めて三百三十二名でした。この春は温暖化の影響が桜の開花がきわめて早く入学式には残っていないのではと懸念されましたが、桜吹雪が新しく始まる学校生活を出迎えてくれるといううれしい誤算となりました。

入学式の週は例年「新入生週間」として、各学年のオリエンテーション、防災訓練、新入生歓迎会などが行われています。中学校新入生歓迎会では、大教室で実行委員が企画し中一担任も加わっての寸劇による学校生活のルール、マナーを説明や、第一体育館での各クラブの紹介が行われました。また、高校新入生歓迎会では、大教室で生徒たちが手作りのビデオを使っているクラブ紹介が行われました。中学、高校とも上級生の工夫が凝らされた歓迎に新入生は感激していました。



二十八日には昨年に続いて「コミュニケーションと自己分析」という題目で心理カウンセラーの林恭弘先生の講演、二十九日には卒業生でもある雅楽師・東儀秀樹氏による雅楽の演奏と講演がありました。東儀氏のジャンルを超えた音楽への深い造詣と愛情は生徒たちをすっかりとりこにしていました。

新型インフルエンザへの対応

四月にメキシコで発生した新型インフルエンザが急速に広がり、日本でも対応を迫られています。中学・高等学校では学園危機管理室のもと冷静で的確な対応に努めています。

五月下旬に予定していた京都・奈良への中学校修学旅行は、この時期の関西地方での感染拡大に配慮して延期いたしました。一方、ケンブリッジ、カウラの短期留学や海外を含む高校学習旅行については予定通り実施する準備を進めています。今後とも状況を的確に把握して判断して参りますのでご理解ご協力をお願いします。

運動部・文化部の活躍

● 高校スキー部

東京都高等学校春期スキー大会
大回転 白旗あづさ 第6位

● 高校陸上競技部

東京都高等学校陸上競技
対抗選手権大会

〈女子〉		
100m	鈴木伶奈	準決勝3位
200m	鈴木伶奈	決勝7位
〈男子〉		
走高跳	田中嘉	決勝進出

小学校の近況

平成二十一年度・小学校入学式

四月六日に入学式を行いました。
今年の入学者は、新一年生百十二名、国際学級新四年生十六名の計百二十八名でした。
新入生も、成蹊小学校の生活にすっかり溶け込み、遠足や運動会などの行事を通して「成蹊らしさ」を満喫しています。これからも、一人ひとりが健やかにそして個性豊かに成長してほしいと願っています。

学校PTA

四月十五日のPTA総会に先立って「学校PTA」を行いました。
学校長からは、貸与奨学金制度など小学校の現状についての説明や創立一〇〇周年記念事業募金へのご協力に対する御礼、また、生活指導主任からは通学マナー指導についての説明と協力依頼、さらには国際教育センター小学校所員からリード・アラウド・ワークショップ拡充の案内など、約一時間の内容となりました。

なお、PTA総会では、新校舎竣工を記念してPTA会長から学校長へ記念品が贈呈されました。二学期から使用する仮設校舎跡地（トンネル山グラウンド）に子どもたちの遊具が設置されることとなります。保護者の皆さまに心から感謝申し上げますとともに、遊具の完成を心待ちにしています。

春の遠足

四月二十四日全学年が遠足を行いました。
春の遠足は、六年生が一年生のお世話をする歓迎遠足と、学年別の鍛錬遠足です。この二年生から五年生までの遠足は、夏の学校を前にした「体力診断」にもなっています。
小学校ホームページでも、遠足の様子を紹介しています。

運動会「優勝へ希望とともにすすむんだ」



五月二十三日に運動会を実施しました。
昨年までは、予行練習を中止したり、あるいは運動会を順延したりと、天候に恵まれないう運動会が続いていましたので、今年もお天気が心配でしたが、熱中症を懸念するほどの好天のもとで実施することができました。

運動会はオープンスクールや文化祭とともに外部希望者にも公開する学校行事です。例年PTA総務部の皆さまに受付のお仕事をお願いしていますが、今年は昨年を三百名ほど上回る約千六百名の外部参観者がありました。

さらに、今年は各学年の演技や競技をできるだけ間近に見て応援していただこうと、立ち

- 一年生＋六年生 井の頭自然文化園
- 二年生 小金井公園
- 三年生 高尾山
- 四年生 高尾山／城山
- 五年生 御岳山／日の出山

全校授業参観日

五月九日に実施した全校授業参観では、全学級三時間の授業の後、懇談会を行いました。
昨年度の新本館竣工記念全校授業参観（十月十八日）と同じく、参観保護者は九八％という高い出席率でした。多くの方々に子どもたちの学習をご覧いただけたことをありがたく思っています。



課外活動「リードアラウド・ワークショップ」

国際教育センターの支援で継続してきた英語の絵本に親しむ「リード・アラウド・ワークショップ」も四年目を迎えました。

四月二十日の説明会では、大学の英語科スタッフから、四つのコースが年間九回のプログラムを組んだ定員制ワークショップとなることについて説明がありました。昨年までは学期一回の自由参加ワークショップでしたが今年はすべてのコースで定員を満了するなど、順調なスタートをきることができました。説明会資料から、学年別のワークショップの概要を引用します。

●Aコース「リード・アラウド 入門」

一年生対象。目標到達点「アルファベットや音に慣れ、日常的な単語、言い回しに親しむ。想像で補いながら理解し、音読する単語を認知し、それらしい発音をする。」定員三十名、参加三十名。

●Bコース「リード・アラウド 初級」

二年生対象。目標到達点「句、文のまとまりを意識して読み下し、その意味を大まかに理解する。内容に即した自然な区切りで、表現豊かな音読をする。」定員三十名、参加三十名。

●Cコース「リーダーズ・シアター」

三・四年生対象。目標到達点「一文とテキストが長めの絵本や、初級読み物を理解する。内容に即して演じるように音読。多様な表現に挑戦し、人前で演じる。」定員三十名、参加三十一名。

●Dコース「リーディング・フォ・ファン」

五・六年生対象。目標到達点「英語でのリーディングを楽しむながら、音やリズムについて勉強します。英語の文字の指導も行います。」定員十五名、参加十六名。

希望者による課外活動ではありますが、こうして継続的に絵本を媒介にして英語に親しむ子どもたちが増えていくことは喜ばしいことです。国際教育センターの力強いご支援、そしてPTA教養部のご協力の賜物と感謝いたします。

夏の学校

創立以来の伝統的教育行事「夏の学校」は、六月初旬の二年生と四年生からスタートしました。

- 一年 箱根（七月十六日～十八日）
- 二年 箱根（六月九日～十二日）
- 三年 箱根（七月十九日～二十三日）
- 四年 南房総白浜（六月八日～十二日）
- 五年 裏磐梯高原（七月十七日～二十二日）
- 六年 南房総館山（七月十七日～二十二日）

今年度も、蹊医会のご協力で、全学年に医師・看護師が同行します。また六年の水泳訓練には、OB師範団や高校生師範助手が同行します。今年も多くの「ふれあいとつながり」の中で夏の学校が開設されることを心から感謝しています。

運動会プログラム

開会式

号砲、ファンファーレ、入場行進、開会宣言、優勝旗返還（昨年度優勝赤組）、学校長の話、はじめの言葉（1年生代表）、選手宣誓（赤白応援団長）

午前の部	赤	白
合同体操(全校生)		
応援合戦		
かけっこ50m(2年生)	92	98
どすこい(3年生)	20	0
徒競走100m(5年生)	144	66
玉入れ(1年生)	0	20
つなひき(3・4年生)	10	10
徒競走100m(6年生)	101	119
つなひき(1年生・教職員)		
組体操「おおぞら」(3年生)		
かけっこ50m(1年生)	100	90
野をこえ山こえ(2年生)	15	5
踊り「ソーラン 09」(4年生)		
騎馬戦(5・6年生 女子)	5	5
低学年リレー	0	30

午後の部	赤	白
応援合戦		
これじゃあ たまんない!(PTA)		
徒競走80m(4年生)	120	100
リズムなわとび「ニホンノミカタ」(5年生)		
おっとあぶない(1年生)	106	84
踊り「うわじまガイヤ」(2年生)		
騎馬戦(5・6年生 男子)	0	10
フラッグバトル09(4年生)	20	0
ピエロ競走(2年生)	104	86
徒競走80m(3年生)	88	102
組体操「White Cliff」(6年生)		
高学年リレー	50	15
大玉おくり(全校生)	0	30

閉会式

成績発表(赤975点、白870点)
優勝旗授与、学校長の話、おわりの言葉(桃の会委員長)、校歌、閉会宣言

第1表 【消費収支計算書】(要約)

2008 (平成20) 年4月1日から2009 (平成21) 年3月31日まで (単位：百万円)			
消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	11,615	11,627	12
手数料	654	791	137
寄付金	424	607	183
補助金	1,570	1,657	87
(国庫補助金)	(888)	(920)	(32)
(地方公共団体補助金)	(678)	(735)	(57)
(その他補助金)	(4)	(2)	(△ 2)
資産運用収入	396	486	90
資産売却差額	0	57	57
事業収入	215	232	17
雑収入	410	457	47
帰属収入合計	15,284	15,914	630
基本金組入額合計	△ 2,731	△ 2,109	622
消費収入の部合計	12,553	13,805	1,252
消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	8,169	7,825	△ 344
教育研究経費	4,764	4,637	△ 127
管理経費	1,031	1,020	△ 11
借入金等利息	40	40	0
資産処分差額	11	758	747
徴収不能引当金繰入額	9	9	0
徴収不能額	0	10	10
〔予備費〕	(119)		△ 111
	111		
消費支出の部合計	14,135	14,299	164
当年度消費収支差額	△ 1,582	△ 494	
前年度繰越消費収支差額	△ 2,622	△ 2,622	
次年度繰越消費収支差額	△ 4,204	△ 3,116	

第3表 【貸借対照表】(要約)

2009 (平成21) 年3月31日 (単位：百万円)			
資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	76,888	76,451	437
有形固定資産	46,862	44,546	2,316
土地	6,237	6,237	0
建物・構築物	32,926	29,986	2,940
教育研究用・その他の機器備品	1,816	1,592	224
図書	4,986	4,827	159
その他	1	2	△ 1
建設仮勘定	896	1,902	△ 1,006
その他の固定資産	30,026	31,905	△ 1,879
有価証券	4,932	4,744	188
指定包括信託	1,478	2,060	△ 582
特定資産	23,214	24,730	△ 1,516
その他	402	371	31
流動資産	11,941	11,318	623
現金預金	10,524	10,094	430
有価証券	800	699	101
その他	617	525	92
資産の部合計	88,829	87,769	1,060

第2表 【資金収支計算書】(要約)

2008 (平成20) 年4月1日から2009 (平成21) 年3月31日まで (単位：百万円)			
収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	11,615	11,627	12
手数料収入	654	791	137
寄付金収入	424	539	115
補助金収入	1,570	1,657	87
(国庫補助金収入)	(888)	(920)	(32)
(地方公共団体補助金収入)	(678)	(735)	(57)
(その他補助金収入)	(4)	(2)	(△ 2)
資産運用収入	396	486	90
資産売却収入	699	1,084	385
事業収入	215	232	17
雑収入	410	456	46
借入金等収入	0	1	1
前受金収入	2,038	2,451	413
その他の収入	6,586	6,899	313
資金収入調整勘定	△ 3,071	△ 3,251	△ 180
前年度繰越支払資金	10,094	10,094	
収入の部合計	31,630	33,066	1,436
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	8,522	8,131	△ 391
教育研究経費支出	2,907	2,737	△ 170
管理経費支出	883	871	△ 12
借入金等利息支出	40	40	0
借入金等返済支出	172	174	2
施設関係支出	4,132	3,735	△ 397
設備関係支出	663	661	△ 2
資産運用支出	4,569	6,221	1,652
その他の支出	749	710	△ 39
〔予備費〕	(119)		△ 231
	231		
資金支出調整勘定	△ 504	△ 738	△ 234
次年度繰越支払資金	9,266	10,524	1,258
支出の部合計	31,630	33,066	1,436

負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	5,189	5,666	△ 477
長期借入金	518	689	△ 171
退職給与引当金	4,671	4,977	△ 306
流動負債	3,517	3,595	△ 78
前受金	2,451	2,642	△ 191
その他	1,066	953	113
負債の部合計	8,706	9,261	△ 555

基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	73,361	69,357	4,004
第2号基本金	100	2,500	△ 2,400
第3号基本金	8,694	8,189	505
第4号基本金	1,084	1,084	0
基本金の部合計	83,239	81,130	2,109

消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
次年度繰越消費収支差額	△ 3,116	△ 2,622	△ 494
消費収支差額の部合計	△ 3,116	△ 2,622	△ 494

科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部 および消費収支差額の部合計	88,829	87,769	1,060

2008年度 決算および事業報告について

学校法人成蹊学園の2008年度決算は、学園監事および公認会計士の監査を受け、5月29日の理事会・評議員会において、確定いたしました。2008年度の消費収支のバランスを表す消費収支計算書（第1表）についての概要は、次のとおりです。

納付金、手数料、補助金、資産運用収入などの本学園に帰属する「帰属収入」は合計で159億14百万円となりました。また、「基本金組入額」の合計は21億9百万円となり、うち第1号基本金は、2008年度に建設・購入等により取得した、建物、建設仮勘定、機器備品、図書などの資産分として16億4百万円、第3号基本金は三菱留学生奨学金基金、中村春二記念育英奨学金基金などの積上げ分の5億5百万円となっています。

帰属収入からこの基本金組入額を控除した額が、消費（支出）に充当できる「消費収入」で、その額は138億5百万円となりました。

一方、教職員の人件費、教育研究・管理経費（減価償却額を含む）、借入金利息などの「消費支出」の合計は、142億99百万円となり、この結果、消費収入から消費支出を差し引いた消費収支差額は、4億94百万円の消費支出超過となりました。

消費収支計算書の主な増加・減少要因などは次のとおりです。

- 納付金は帰属収入に占める最大の収入要因であり、その割合は約73%となりました。
- 手数料は、大学の入学試験において昨年以上の志願者を集めることができたこと、また、寄付金は創立100周年記念募金に対しご寄付をいただきましたことなどにより増加しております。
- 教育研究経費は委託費や光熱水費などの節減等により減少しました。
- 当年度の収支差額は15億82百万円を見込んでおりましたが、消費支出が1億64百万円増加した反面、帰属収入が6億30百万円増加したことおよび基本金組入額が6億22百万円減少したことから、4億94百万円の消費支出超過にとどまりました。

第2表の資金収支計算書は、教育研究など学園全体の諸活動に伴う資金の動きが全て網羅されています。総額は330億66百万円となり、次年度繰越支払資金は105億24百万円となりました。

2008年度に実施した主な事業は次のとおりです。

創立100周年記念事業

- 2007年12月に着工された高校ホームルーム棟の建築は、順調に工事が進み、2008年12月に竣工、3学期から使用を開始しました。4階建てで、2階から4階は学年毎の教室になっており、2階には職員室、4階には少人数教育用の分割教室や2クラス合併授業用の合同教室が設置されました。中学校ホームルーム棟と同様、ホームルームには52インチの液晶ディスプレイが設置されIT教育教材を使った授業で利用されています。また、人感センサーや窓ガラスにペアガラスを採用し省エネルギーにも対応しています。
- 高校ホームルーム棟は、中高中央館の北側に竣工し、中高中央館と2・3階を接続するための改修工事を実施いたしました。従来、中高中央館にあった各教科の研究室を職員室として統合し高校ホームルーム棟の2階に移設しましたので、その後に少人数教育用の分割教室を設置しました。また、高校の多様化する情報教育に対応するためコンピュータ室を増設し2室としました。北面に位置する高校ホームルーム棟から中央館を通り南の中学校ホームルーム棟までが連結され、利便性が向上いたしました。
- 中学校ホームルーム棟は、高校ホームルーム棟を建設している間、高校生が一時的に利用しておりましたが、高校ホームルーム棟の完成により、改めて中学生の利用に供するよう机・椅子などの再整備を行いました。
- 2007年6月に取り壊した旧小学校理科館と旧小学校本館の跡地に、2007年7月から着工していました新小学校本館の建築工事が2008年7月に竣工し、2学期から使用を開始しました。28人4学級体制に対応した3階建ての校舎です。教室は全室南向きで、各教室の前にはウッドデッキテラスを設置し、建物内には図書室・理科室のほか250インチの大型ワイドスクリーンを備え多目的利用が可能なかやきホールを設置しました。屋上には、芝生を植栽し、建物周辺には岩石園やビオトープも設置し、環境教育にも配慮した校舎となっております。
- また、学園施設の再開発に伴い、従来の集中スチーム暖房設備が老朽化により廃止となりましたので松林館の冷暖房設備を更新いたしました。

研究活動の高度化

文部科学省の補助金を受けて推進している、大学院工学研究科のハイテク・リサーチ・センター事業、ならびに大学の現代的教育ニーズ取組み支援プログラム（事業名称：進化する教養教育と国際化新人材の育成）は、ともに2008年度が最終年度となり、その成果が報告・活用されております。なお、理工学部では文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の研究助成金を受けて、2008年度より「人と環境に優しい統合化された社会システム研究基盤整備事業」の研究を開始いたしました。

学習・教育支援体制の整備

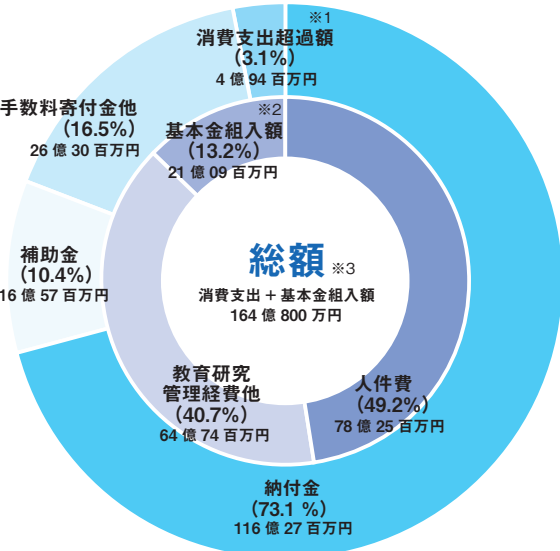
- 2007年度の大学8号館に引き続き、コンピュータを使用した授業の増加に応えるため、コンピュータ画像を出力するプロジェクター設備を大学9号館の小・中規模の一般教室に設置いたしました。
- 大学の教室棟に設置し、学生へ各種の情報を伝えるためのインフォメーションテレビシステムを新システムに入れ替えました。
- 大学8号館の出入りに車椅子の利用が可能となるよう自動扉を設置しました。
- 大学テニスコート（4面～6面）を人工芝に改修しました。
- 中高理科造形館の屋上防水工事を行いました。
- 小学校プールサイド・更衣室の床の滑り止め改修をしました。

その他の事業

- ケンブリッジ大学の学生劇団であるペンブルックプレイヤーズが2007年度に続き9月に来校し、大学4号館ホールにおいて「真夏の夜の夢 成蹊公演」を上演しました。学園の児童・生徒・学生のほか保護者や地域の方々計370名が来場しての盛況な開催となりました。また、ケンブリッジ大学の学生と学園の高校生・大学生と一緒に、当日の劇に親しむための事前学習としてワークショップを開催し、交流を深めました。
- 成蹊学園の各校の在校生や卒業生ならびに保護者などの成蹊関係者が出演する第2回成蹊音楽祭を12月に大学4号館ホールで開催いたしました。当日は、第1部で在校生・卒業生・保護者の方々の演奏やコーラス、第2部では中学校から大学までを成蹊で過ごしたサクソ奏者、本多俊之さんによるスペシャルセッションが行われ、成蹊関係者のみではなく近隣の皆さまにも音楽祭を堪能していただきました。

2008年度消費収支計算書を図で表すと、次のとおりです。

- ※1 2008年度は消費支出超過だったため、各比率の合計が100%を超えます。
- ※2 基本金組入額は、計算書では帰属収入合計から控除することになっていますが、図では支出額に加えて表示しています。
- ※3 総額は、消費支出と基本金組入額を加えた額となっていますが、各科目の構成比率は帰属収入合計（159億14百万円）を100%として表示しています。



パソコン・携帯電話からのクレジットカード決済のご案内

パソコン・携帯電話からも寄付のお申し込みができます（クレジットカード決済のみ）。
簡単にお手続きできますので、ぜひご利用ください。

〈パソコンをご利用の場合〉



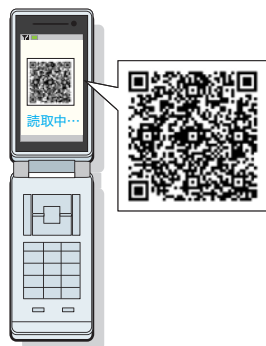
1 成蹊学園トップページ <http://www.seikei.ac.jp> を開き、画面右上にある「100周年記念事業」をクリックしてください。



2 100周年記念事業ページの左下にある「パソコン・携帯電話からの募金のお申し込みはこちら」をクリックしてください。

以降は画面表示に従って、手続きをお進めください。
決済が完了すると、申込完了メールが届きます。

〈携帯電話をご利用の場合〉



- 1 左の二次元バーコードを読み取り、空メールを送信してください。
読み取れない場合は bokin@sk.seikei.ac.jp に、
直接空メールを送信してください。
- 2 数秒後にURLが記載されたメールが返信されますので、
そのURLにアクセスしてください。
- 3 「成蹊学園募金モバイルサイト」が表示されますので、
お手続きください。

※ご利用いただけるのは、i-mode、EZweb、Yahoo!ケータイに
対応した種となります。

以降は画面表示に従って、手続きをお進めください。
決済が完了すると、申込完了メールが届きます。

【ご利用にあたって】

- クレジットカード決済は、個人の方のみご利用いただけます。（法人・団体でのご寄付をご希望の場合は、
誠にお手数ですが募金局までお問い合わせください）
- ご寄付者名とカード名義人は同一である必要があります。
- ご利用いただけるカードは、DC カード・VISA カード・マスターカードです。

【お問い合わせ先】

成蹊学園
創立100周年記念事業募金局
電話：0422-37-3941
Email：fund@jim.seikei.ac.jp

全学部統一入試を吉祥寺（本学）・横浜・さいたまの3会場で実施。 一般入試の成績上位者（S方式は合格者全員）には奨学金を給付。

本学は昨年度実施された一般入学試験において、おかげさまで24,473名の志願者を獲得し、2年連続で志願者増を達成することができました。今年度の入学試験においても、昨今の経済不況による大学進学を取り巻く影響に配慮し、これまで同様に一般入試（E・A・C方式）の成績上位者と大学入試センター試験利用5科目型奨学金入試（S方式）の合格者全員に初年度年間授業料の半額相当を給付いたします。

大学

E方式（全学部統一入試）：2教科型

学 部	学 科	募集人員	出 願 期 間	試 験 日	合 格 発 表 日
経済学部	経済経営学科	40	1月5日（火）～1月20日（水） 《消印有効》	2月3日（水）	2月9日（火）
法学部	法律学科	24			
	政治学科	12			
文学部	英米文学科	7			
	日本文学科	6			
	国際文化学科	6			
	現代社会学科	8			
	物質生命理工学科	12			
理工学部	情報科学科	12			
	エレクトロメカニクス学科	12			

A方式（一般選抜入試）：3教科型

学 部	学 科	募集人員	出 願 期 間	試 験 日	合 格 発 表 日
経済学部	経済経営学科	130	1月5日（火）～1月28日（木） 《消印有効》	2月13日（土）	2月20日（土）
	地歴公民型 数学科型	45			
法学部	法律学科	110		2月14日（日）	2月21日（日）
	政治学科	58			
文学部	英米文学科	55		2月12日（金）	2月19日（金）
	日本文学科	43			
	国際文化学科	50			
	現代社会学科	46			
	物質生命理工学科	43			
理工学部	情報科学科	43		2月11日（木）	2月18日（木）
	エレクトロメカニクス学科	43			

C方式（センター試験利用3教科型入試）／S方式（センター試験利用5科目型奨学金入試）

学 部	学 科	募集人員		出 願 期 間	試 験 日	合 格 発 表 日
経済学部	経済経営学科	C方式	S方式	1月5日（火）～1月15日（金） 《消印有効》	1月16日（土） 1月17日（日） 〔大学入試センター試験日〕 本学での2次試験は実施しません。	2月9日（火）
	法学部	35	5			
文学部	法律学科	36	4			
	政治学科	24	2			
	英米文学科	10	2			
	日本文学科	8	2			
	国際文化学科	8	2			
理工学部	現代社会学科	8	2			
	物質生命理工学科	27	3			
	情報科学科	27	3			
	エレクトロメカニクス学科	27	3			

AO マルデス入試

学 部	学 科	募 集 人 員		出 願 期 間	一 次 審 査	一 次 審 査 合格発表	二 次 審 査	二 次 審 査 合格発表					
経済学部	経済経営学科	一般	特別	9月24日（木）～ 10月7日（水） 《消印有効》 ただし10月8日（木） は本学で窓口受付を 行います。	10月24日（土）	10月30日（金）	11月7日（土）	11月14日（土）					
	法学部	25	6										
文学部	法律学科	4	4										
	政治学科	4	4										
	英米文学科	6	6										
	日本文学科	3	3										
	国際文化学科	6	6										
理工学部	現代社会学科	6	6										
	物質生命理工学科	10	10										
	情報科学科	10	10										
	エレクトロメカニクス学科	10	10										
									審 査		合格発表日		
									11月1日（日）		11月14日（土）		

高等学校・中学校・小学校					
募 集 年 次		募 集 人 員	出 願 期 間	試 験 日	合格発表日
高等学校	第1学年	第1学年男女約70名	1月25日（月）～ 1月29日（金） 窓口受付2月3日（水）10:00～15:00	2月10日（水）	2月11日（木）
	第1学年帰国生	第1学年男女若干名	2月4日（木）～2月6日（土）・2月13日（土）	2月14日（日）	2月15日（月）
	第2学年編入	第2学年男女若干名	3月1日（月）～ 3月8日（月）	3月13日（土）	3月15日（月）
中学校	第1学年	第1回: 男子約55名 女子約40名 第2回: 男子約20名 女子約15名	1月20日（水）～ 1月22日（金） 窓口受付（第2回のみ） 2月3日（水） 10:00～15:00	第1回: 男子1日（月） 第2回: 2月4日（木）	第1回: 2月2日（火） 第2回: 2月4日（木） 掲示板: 2月5日（金）
	国際学級 第1学年	9月期入学 4月期入学	第1学年男女若干名 第1学年男女約10名 ※状況により2次募集を実施	2009年6月12日（金）～6月18日（木）	2009年7月1日（水）
	第2学年帰国生編入	第2学年男女若干名	12月10日（木）～12月16日（水）	1月8日（金）	1月9日（土）
小学校	第1学年	112名（男子56名／女子56名）	10月1日（木）～10月3日（土）	男子:11月1日（日）午前と 2日（月）～4日（水）の1日 女子:11月1日（日）午後と 2日（月）～4日（水）の1日 保護者面談（男女とも） 11月2日（月）～4日（水）の1日	11月5日（木）
	国際学級 第4学年	4月期入学	第4学年16名	1月12日（火）～ 2月26日（金）	3月6日（土）

成蹊から
お伝えしたいこと

学 園

TOPICS

成蹊学園創立一〇〇周年記念事業
募金推進の集いを開催しました

五月三十日（土）
於 本館大講堂および大学10号館12階ホール

成蹊学園創立一〇〇周年記念事業募金局では、二〇一〇年十月のスタート以来、同窓生・在校生ご父母・教職員および学園関係者からなる発起人・募金委員・募金推進委員の方々のご協力の下、募金活動を続けてまいりました。

このたび、各委員の皆さまにご参集いただき「成蹊学園創立一〇〇周年記念事業募金推進の集い」を開催しました。この集いは、日頃の委員の方々のご尽力に対して御礼を申し上げ、募金活動の状況についてご報告申し上げるとともに、意見交換や交流を通じて今後の推進活動にご理解とご支援をいただく機会として恒例により開催したもので、当日は約百名の方々にご出席をいただきました。

第一部では、料理評論家で在校生のご父母でもある山本益博氏より「こんな食べ方ではもったいない」と題してご講演いただきました。職人の仕事、外での食事、家庭での食事など、「ものをおいしく食べる」ことをさまざまな切り口で楽しくお話しいたいただき、「食」について考える貴重な機会となりました。この講演は、委員のほか一般にも公開されました。

第二部では、冒頭に募金委員会副会長の加藤専務理事より、これまでのご支援に対する御礼と、募金活動状況について報告があり、続いて一〇〇周年記念事業募金に多大な協力を賜った鈴木利貞氏（旧高昭和八年卒）に対し、感謝状と記念品が贈呈されました。鈴木様は中村春二先生が校長の時代に成蹊小学校に入学されており、当時の思い出が披露されました。

続く懇親会では、募金委員会副委員長の栗田恵輔成蹊大学長の開会挨拶、成蹊会会長相川一成様より「こあい」と乾杯のご発声、その後角雄功中

（お問い合わせ）
成蹊学園広報課 〇四二二一三七一三五七七
詳細は決定次第ホームページなどお知らせします。
http://www.seikei.ac.jp/gakuen/

地域懇談会開催

浜松会場

（対象地域：静岡県・愛知県）
日程：2009年10月3日（土）
会場：オークラクトシティホテル浜松

福岡会場

（対象地域：九州地区）
日程：2009年10月31日（土）
会場：ホテルクリオコート博多

■対象者 在校生保証人・卒業生
■式次第（共通）
9:15～ 在校生保証人（個別相談希望者）受付開始
9:30～11:00 在校生保証人対象個別相談会
11:00～ 在校生保証人・卒業生 受付開始
11:15～12:25 懇談会
12:30～14:15 懇親会

学・高等学校長、金納善明小学校長より、日頃のご尽力に対する御礼と各学校における一〇〇周年記念事業の現況についての報告がありました。参加者の皆さまは、和やかな雰囲気のため、歓談を深められ、最後は校歌を斉唱し、盛況のうちに閉会いたしました。

成蹊学園では、二〇一二年の学園創立一〇〇周年を目指し、今後も募金活動を進めてまいりたいと存じます。引き続き皆さまのご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

浜松・福岡二会場で地域懇談会を開催

該当地域にお住まいの方へは、別途ご案内状を差し上げます。ぜひお越しください。

● 学園組織一覧			
法人	総務部	総務課	0422-37-3503
		人事課	0422-37-3505
		広報課	0422-37-3517
	財務部	募金課	0422-37-3941
		経理課	0422-37-3508
		管財課	0422-37-3511
大学	健康支援センター	健康支援センター事務室	0422-37-3518
	国際教育センター	国際課	0422-37-3536
	学園情報センター	情報システム課	0422-37-3611
	企画運営部	企画運営課	0422-37-3531
	教務部	研究助成課	0422-37-3705
	学生相談室		0422-37-3807
	学生部	学生生活課	0422-37-3539
	図書館	図書保健室	0422-37-3518
	アジア太平洋研究センター	図書館事務室	0422-37-3544
	キャリア支援センター	キャリア支援センター事務室	0422-37-3537
中学・高等学校	入試センター	入試センター事務室	0422-37-3533
小学校	中学・高等学校事務室	0422-37-3849	
	小学校事務室	0422-37-3838	

● 役職者		
成蹊学園		
理事長	佃 和夫	
専務理事	加藤 節	
総務部長	茂木 聡	
総務部担当部長	伊藤 昌弘	
財務部長	早野 潔	
健康支援センター長	加藤 明良	
国際教育センター所長	井上 智夫	
学園情報センター長	岩崎 学	
成蹊小学校		
校長	金納 善明	
教頭	大場 繁	
成蹊中学・高等学校		
校長	両角 雄功	
教頭	吉崎 純二	
教頭	跡部 清	

成蹊大学		
学長	栗田 恵輔	
副学長	武藤 恭彦	
経済学部長	藤垣 芳文	
大学院経済経営研究科長		
理工学部長兼工学部長	廣田 明彦	
大学院理工学研究科長兼工学研究科長		
文学部長	門口 充徳	
大学院文学研究科長		
法学部長	西崎 文子	
大学院法学政治学研究科長		
大学院法務研究科長	萩澤 達彦	
企画運営部長兼入試センター事務部長	高浜 武則	
企画運営部担当部長	鐘川 誠司	
教務部長	秋庭 正典	
学生相談室長	加藤 明良	
学生部長	大町 健	
図書館長	渡邊 一衛	
アジア太平洋研究センター所長	亀嶋 庸一	
キャリア支援センター所長	北川 浩	
キャリア支援センター事務部長	三浦 俊哉	
入試センター長	奥野 昌宏	